

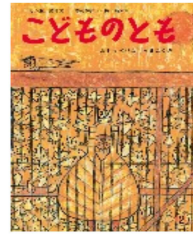
夢の本棚

発行所：松居直コレクション
プロジェクト
代 表：金戸 美紀予
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp



【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

◆寺村輝夫さんの2冊目の「おしゃべりなたまごやき」で、山中春雄さんがもう亡くなっていたので、長新太さんにお願いをして描いてもらいました。長さんは、締め切りを非常によく守る人なんです。途中で相談したりってことはされな感じです。自分の仕事が終わると電話がかかってきて、私はこれをしていただきました。びっくりしました。◆大きな原画です。長さんは、物語をほんとに自分のものにして描いたなあと思って、編集部で見えておりました時に、瀬田貞二さんが入って来



寺村輝夫作/長 新太画
35号/1959年2月号

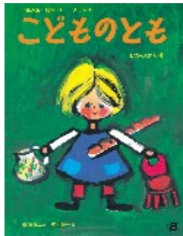
国際級の絵描きさん

「じじいものとも」を彩る作家と画家たち ⑬
自画自賛したくなる作品群



られたんです。私が「長さんが今描かれたばかりの原画なんですよ」と言ったら、瀬田さんが、それを時間をかけてご覧になって「日本にも国際級の絵描きさんが出ましたね」とおっしゃった。◆これが、翌年、文藝春秋の「漫画賞」をもらったんです。文藝春秋の漫画賞の審査員の中に、徳川夢声さんがいましたし、長さんのファンなんです。そんなことで、今でもよく読まれています。

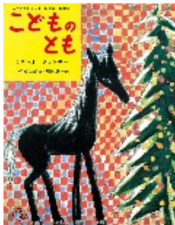
アトリエに並べて



グリム作/瀬田貞二案/堀内誠一画
41号/1959年8月号

◆これは、堀内誠一さんの絵本としては最初の本なんです。私が最初に絵をお願いしたの

は、「七わのからす」だったんです。これが一番最初と最後までどうしてもうまく行かず、なかなか全部仕上がらなかつたんです。細かく見ていきますと、ほんとに物語を非常に連続して、しかもその中で変化を持たせて描いてらっしゃる。一つの絵が、独特の表現になってるんです。堀内さんは、アトリエの中でずっと並べて、いつも描いてらっしゃいましたからね。◆あれができるまで、まだ時間がかりそうだからということ、私はその間に、この「くるうまブランキー」という



伊藤三郎訳/堀内誠一画
33号/1958年12月号

のフレネ学校の子ども

良くできていると評価

◆これを出した直後でしたけども、スイスのベッティナー・ヒュリマンという世界的な絵本のコレクターと研究者で、IBBYの創設にたいへん力のあったスイスの出版社の社長夫人が日本に来ました時に、その後この

Q: IBBYって?

1953年にスイスのチューリッヒで設立された国際児童図書評議会略称。現在本部をスイスのパーゼルに置く。主な活動は、児童

文学の研究や調査、発展途上国の子どもの普及や本を世界中の子どもの国際交流の推進など。約70ヶ国の加盟国に向け、機関誌を発行した。

本を送りました。そして、ベッティナーさんが「これはぜひドイツ語でスイスで出版したい。とっても良くできていると思う」とおっしゃったんです。◆ところが、ちょうどその頃、フェリクス・ホフマンさんの『七わのからす』がスイスで出たもんですから、スイスで出ることにはありませんでしたけれども、ベッティナーさんは、その後もずっと「これはもう良くできてる」とたいへん評価してくださっていました。(つづく)